

走り続けて20年。周りの支援に感謝



Mari Jazdance Company 代表

なか しま まり
中島真理さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.207

マリジャズダンスカンパニー(MJC)を立ち上げ今年で20年。今月の〜れで20周年記念公演を開催しました。「みの〜れは思い出の場所」と語る、土浦市にお住まいの中島真理さんにインタビューします。

節目は常に みの〜れで

神奈川県川崎市生まれ。オリンピックで活躍したナディア・コマネチ選手に憧れ、中学・高校で器械体操部、短大でモダンダンス部に所属。20歳からジャズダンスを始め、東京でダンスサーとして活動しながら幼児体育スクールで講師を務め、忙しい日々を送っていました。

結婚を機に茨城県へ移住。娘が2歳になった頃に土浦でジャズダンススクールのアシスタントを始め、7年務めて独立。「独立することができたのは、夫が後押ししてくれたことが大きかったです。マリジャズダンスカンパニーの『カンパニー』は『仲間』という意味を込めて付けたのですが、夫の提案でもありませんでした。組織運営や体制づくりを教えてくれる「頼りになる

相談相手」と言います。

独立したての頃は3クラスから始まり、徐々に大きくなって、毎日教室を開くまでの大所帯になりました。「周りの協力が無かったら、ここまで続けることはできませんでした」と感謝。娘の優希さんもその一人。MJCで育ち、国内外で活躍するダンスサーとなり、ミュージカル作品の振付師も務めています。さらにMJCの指導者としても東京と茨城を行き来する八面六臂の活動ぶり。「かなり無理させてしまっていて、これから先を見据えた体制づくりを行う時期に来ているなど感じています」と中島さん。

「20年やってきたことを振り返りながら、この1年を過ごしてきたのはとても大きかったです。長年指導を続けている方々のお話を伺い、気づきを得たことがたくさんありました」。義父は40年に

渡りボートクラブの取りまとめをしてきた指導者で、その話も「いま心に沁みています」と語ります。MJC20年という節目が、中島さんの心のアンテナを成長から成熟へと向けさせています。

みの〜れとのご縁は、みのり新体操クラブ代表の滑川富美子先生のおかげ。「美野里町に素晴らしいホールができたから一緒に発表会をしませんか」と声をかけられ合同開催。以来、節目の発表会はみの〜れで開催してきました。また、みの〜れ10歳記念ミュージカル「未来口ケット」にMJCが賛助出演し、中島さんは振付を務めるなど、創作を担いました。

中島さんにとってみの〜れは「なくてはならない場。育ててもらった場。そして、たくさんのご縁をいただいた場です」。これからもMJCと共に、みの〜れも育っていきたいですね。(藤田佐知子)